
5. 復興を支援する活動

この章では、東日本大震災後に様々な団体・機関によって行われた、被災した図書館に対する支援活動及び被災地の読書環境復旧のための支援活動の中から 45 のプロジェクトや活動を取り上げて紹介する。

取り上げる支援活動は、「活動概要」「実施団体・機関」「受援施設・団体・機関」「主な参画・協力団体・機関」「実施期間」「実績データ」の項目をシート形式で整理し、以下の 4 つの種別に分類した。並び順はおおむね活動開始時期の早い順番とし、シート上部には主な活動地域、下部には主な活動時期を表すラインを設けた。

なお、「実施団体・機関」「主な参画・協力団体・機関」のうち下線が引いてある団体・機関については、「7.1 支援団体」でその概要を紹介している。

5.1 被災資料の救済 (No. 1~12)

被災地域において、地震及び津波で被災した図書館等の所蔵する資料（文書、貴重書等）を倒壊の恐れのある建物等から救出・保全するとともに、水損・汚損した資料を洗浄・修復する活動を取り上げた。

5.2 被災地における図書館・読書環境の整備支援 (No. 13~39)

震災で蔵書を失った図書館や学校、読書環境が整備されていない避難所や仮設住宅に対する献本活動、移動図書館車の巡回や仮設図書館の開設、電子書籍の提供等被災地の図書館や読書環境を整備復旧する活動を取り上げた。

5.3 図書館サービスを通じた被災地支援 (No. 40~44)

各地の図書館から被災地の図書館に対して行われた、ウェブページによる情報提供、レファレンスや複写サービスの提供、電子書籍・データベースへのアクセス提供に関する活動を取り上げた。

5.4 被災図書館支援ポータルサイト (No. 45)

被災地の図書館を支援するために開設されたポータルの中から、wiki による共同編集で運営され、図書館のほか博物館や文書館、公民館も含めた被災地文化施設の復興支援活動のプラットフォームとなっている「saveMLAK」を取り上げた。

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

		宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
No. 1	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業 (文化財レスキュー事業)						
活動概要	<p>広域災害にとまなう文化財の廃棄や散逸を防ぐことを目的として、直接の被災や保管施設の倒壊もしくは倒壊の恐れ等により緊急の措置を必要とする動産文化財及び美術品(絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史資料・有形民俗文化財等)を、国の指定の有無に関わらず救済し、応急措置と一時保管を行う事業。阪神大震災時に次ぐ2回目の実施となる。</p> <p>文化庁の呼びかけで設置された「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」(事務局:東京文化財研究所)が、被災地の教育委員会からの要請を受けて、専門家による救援チームを被災地に派遣、現地本部を拠点に全国の関連機関やボランティアの協力を得て文化財等の救出、洗浄・修復等の応急措置、一時保管等を行う。宮城県は4月、岩手県は5月下旬、茨城県・福島県は8月にそれぞれ活動を開始した。</p>						
実施団体・機関	<p>東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会</p> <p>[構成団体・機関] 文化庁(文化財部美術学芸課)・(独)国立文化財機構(本部・東京国立博物館・奈良国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館・東京文化財研究所・奈良文化財研究所)・(独)国立美術館・人間文化研究機構(国文学研究資料館・国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館)・(独)国立科学博物館・国立国会図書館・全国大学博物館学講座協議会・全国美術館会議・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・(財)日本博物館協会・日本文化財科学会・(社)文化財保存修復学会・宮城歴史資料保全ネットワーク・歴史資料ネットワーク</p> <p>岩手県教育委員会・宮城県教育庁・福島県教育庁・茨城県教育委員会</p>						
受援施設・団体・機関	<p>[宮城県] 石巻文化センター(石巻市収蔵資料)・ホエールランド(石巻市牡鹿町鮎川/鯨類標本)・マリナル女川(女川町収蔵資料)・岩井崎プロムナードセンター(気仙沼市階上/民俗資料)・東松島市埋蔵文化財収蔵庫(東松島市野蒜/考古資料、水損図面等凍結乾燥)・歌津魚竜館(南三陸町/魚竜化石等の自然資料)</p> <p>[岩手県] 陸前高田市立博物館(陸前高田市/収蔵資料)・釜石市役所(釜石市/行政文書)・陸前高田市役所(陸前高田市/行政文書)</p> <p>[茨城県] 新治汲古館(筑西市/考古資料)</p> <p>[福島県] 須賀川市長沼収蔵庫(須賀川市長沼/ダム決壊による水損文化財)ほか</p>						
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・東北歴史博物館・宮城県美術館(保管場所の提供) ・岩手県立博物館(陸前高田市立図書館「吉田家文書」等の救済) ・東北大学・東北学院大学・東北芸術工科大学(修復支援ボランティア) ・奈良市場冷蔵株式会社(救出文書の冷凍保存) ・凸版印刷株式会社(被災文化財データベース構築、保管場所の提供)ほか 						
実施期間	2011年4月1日～2012年3月31日						
実績データ	参加者数:延べ4,829人(2012年3月1日現在)						
出典及び関連情報	<p>東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)について(文化庁 2011/3/31付け)</p> <p>http://www.bunka.go.jp/bunkazai/tohokujishin_kanren/pdf/bunkazai_rescue_jigyo_ver04.pdf</p> <p>東北地方太平洋沖地震 被災文化財救援事業(東京文化財研究所)</p> <p>http://www.tobunken.go.jp/japanese/rescue.html</p> <p>[イベント] 被災文化財レスキュー事業情報共有研究会(2011/5/10)</p> <p>http://www.tobunken.go.jp/~hozon/rescue/rescue20110510.html</p> <p>[イベント] シンポジウム 文化財レスキュー事業の今後を考える(2012/3/24)</p> <p>http://www.bunka.go.jp/oshirase_event/2012/bunkazai_rescue.html</p>						



5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 2	「吉田家文書」等の修復支援活動
活動概要	<p>津波で壊滅的な被害を受けた岩手県の陸前高田市立図書館が所蔵する岩手県指定文化財「吉田家文書」等の資料を救出・修復する活動。</p> <p>陸前高田市立図書館は2階建の2階部分まで津波に襲われ、壊滅的な被害を受けたが、重要書庫に保存されていた「吉田家文書」等が、2011年4月2日と3日に岩手県立博物館によって救出された。海水につかり泥や砂にまみれた状態であったため、岩手県立博物館において修復作業が実施されている。被災文化財等救援委員会(文化財レスキュー事業)、博物館関係機関、ボランティアの協力を得ながら、洗浄・脱塩・真空凍結乾燥・薫蒸・クリーニング・整形等の作業が行われている。2012年1月時点で120冊のうち65冊のクリーニングが完了している。</p> <p>また、図書館振興財団の助成で「吉田家文書」のデジタル画像のデータ復旧も行われ、写真帳として印刷されたものが陸前高田市に寄贈された。2012年2月から、被災公文書等デジタル化実行委員会によるデジタル画像制作作業が行われている。</p>
実施団体・機関	岩手県立博物館
受援施設・団体・機関	陸前高田市立図書館
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> 被災文化財等救援委員会 博物館関係機関 NPO法人地域資料デジタル化研究会
実施期間	2011年4月～
実績データ	救出資料点数：約4,000点（墨書と綴本、絵図、陸前高田市の近代地方行政文書等）うち岩手県指定文化財吉田家文書 120冊（クリーニング完了65冊）、陸前高田市勢を示す写真、フィルム、絵はがき 約900点
出典及び関連情報	<p>岩手県立博物館で行っている被災文化財等救出事業の概要（岩手県立博物館2012/1/31付け） http://www.pref.iwate.jp/~hp0910/news/rescue/rescue1.pdf</p> <p>被災現場の古文書等の救済の現地から（被災文化財レスキュー事業情報共有・研究会資料 2011/5/10） http://www.tobunken.go.jp/~hozon/rescue/file8.pdf</p> <p>平成23年度助成事業実績（図書館振興財団） http://www.toshokanshinko.or.jp/jigyuu/josei.htm</p> <p>吉田家文書について（いわての文化情報大事典） http://www.bunka.pref.iwate.jp/ciss/bunkazai/detail/id/437</p>



5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 3	宮城県農業高等学校の水損和書救済事業
活動概要	<p>津波で被災した宮城県農業高等学校（名取市）所蔵の農業関係の和書等の資料を、歴史資料ネットワーク等の資料救出活動グループのメンバーやボランティアがレスキューする事業。</p> <p>宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城資料ネット）を通じて同校からの依頼を受けた歴史資料ネットワークの松下副代表等4名が2011年4月25日に現地入りし、山形資料ネットワーク（6名）と宮城資料ネットワーク（8名）のメンバーとともに作業を行った。資料は現地から東北芸術工科大学の文化財保存修復研究センターに運ばれ、27日にかけて応急処置作業が実施された。5月29日と30日にも2回目のレスキュー作業が実施されている。</p> <p>歴史資料ネットワークは、1995年1月の阪神・淡路大震災を機に、関西の歴史研究者を中心に発足したボランティア団体。</p>
実施団体・機関	歴史資料ネットワーク（史料ネット）
受援施設・団体・機関	宮城県農業高等学校
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク</u> ・ <u>山形文化遺産防災ネットワーク</u> ・ <u>東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター</u> ・ <u>資料保存器材</u>（木部徹氏）
実施期間	2011年4月25日～5月30日
実績データ	搬出した資料：コンテナ約50箱分
出典及び関連情報	<p>[前編] 2011年4月25～27日 宮城県農業高等学校所蔵書籍レスキュー報告（歴史資料ネットワーク 2011/4/30 付けの記事） http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34607046.html</p> <p>[後編] 2011年4月25～27日 宮城県農業高等学校所蔵書籍レスキュー報告（歴史資料ネットワーク 2011/4/30 付けの記事） http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34607256.html</p> <p>東日本大震災 伝統と学びの記録を保全する－宮城県農業高校（宮城資料ネット・ニュース 129号 2011/6/2 付け） http://www.miyagi-shiryounet.org/03/news/2011/2011news.html#129</p> <p>水損資料応急処置（宮城資料ネット・ニュース 115号 2011/5/1 付け） http://www.miyagi-shiryounet.org/03/news/2011/2011news.html#115</p>

2011年				2012年								
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		●	●									
		5/29-30 第2次レスキュー実施										
		4/25-27 第一次レスキュー実施										

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 4	「思い出サルベージ」プロジェクト
活動概要	<p>宮城県山元町で日本社会情報学会（JSIS-BJK）災害情報支援チームが中心となって実施している、津波で汚損した写真を洗浄後デジタル化し、原本とともに持ち主に届けるプロジェクト。</p> <p>同プロジェクトでは、回収されたアルバム・写真の汚れを手作業で洗浄し、プロのカメラマンの指導のもとデジタルカメラで撮影、画像ソフトで補正した後、検索可能なデジタルアーカイブを作成している。地元行事・学校行事等の写真は地元で共有され、原本は同町の「ふるさと伝承館」に保存されるほか、デジタル化された写真が同館で展示され、「キーワード検索」「顔画像認識システム」「カタログ検索」の3つから検索できるようになっている。</p> <p>なお、同プロジェクトは、JSIS-BJK 災害情報支援チームが山元町で支援活動を展開する中で、被災地で特に写真やアルバムへのニーズが高いことがわかり立ち上げられたもの。</p>
実施団体・機関	日本社会情報学会（JSIS-BJK）災害情報支援チーム
受援施設・団体・機関	宮城県山元町
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大学地域振興プロジェクト“HARU”（回収・洗浄への協力） ・山元町役場（回収・洗浄への協力） ・フジフィルム写真救済プロジェクト（技術協力） ・ニフティ株式会社（画像補正への協力） ・大妻女子大学（画像補正への協力）
実施期間	2011年4月～
実績データ	回収された写真の総数：約70万枚
出典及び関連情報	<p>思い出サルベージアルバム・オンライン http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/omoide/ 日本社会情報学会災害情報支援チーム 活動ブログ http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/blog/</p> <p>山元町・「思い出の品」「被災写真」に関するお知らせ http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/jishin/omoide_pic.html</p>



5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 5	学生を主体とした被災資料の救済活動
活動概要	<p>山形市にある東北芸術工科大学の文化財保存修復研究センターと同大学の美術史・文化財保存修復学科の教員、学生、ボランティア有志による被災資料の救済活動。</p> <p>2011年4月25日に宮城県内から被災した書籍資料が搬入され、学生と共に応急処置を実施。5月10日には南三陸町から被災資料が搬入された。5月に文化庁から同センターに対して被災資料応急処置の協力依頼があり、宮城県の高校や美術館、岩手県の博物館等から東洋絵画、立体美術作品、歴史的な研究資料や書籍類等資料約5,000点の修復を引き受けている。</p> <p>被災文化財のうち書籍類については、教員の指導のもと東北芸術工科大学の学生及び山形県文化遺産防災ネットワーク所属団体メンバーが中心となって、真空凍結乾燥法や送風によって水分を除去した後、ページごとに泥を払い、しわを伸ばす応急処置が行われており、処置が済んだ資料はセンター内保管庫等で一時保管保管されている。</p> <p>8月5日には、同大学文化財保存修復研究センターにおいて、山形県青年の家の主催で、ボランティアに関心を持つ中学生・高校生を対象に、被災資料の修復処置を体験する「文化財レスキューを学び体験しよう」が開催された。また、10月には東北芸術工科大学図書館スタジオで、文化財（被災図書資料）レスキューの取組を紹介する展覧会「被災図書レスキュー～護る・遺す・繋げる～」を開催した。</p>
実施団体・機関	東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科、同文化財保存修復研究センター
受援施設・団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県内の高校、美術館 岩手県内の博物館 等
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> 山形文化遺産防災ネットワーク（応急処置） 米沢女子短期大学（資料保管） 歴史資料ネットワーク 自衛隊（運び入れ）
実施期間	2011年4月～
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> 受入被災資料点数：約5,000点弱 応急処置数：書籍 約900冊、立体作品58件、平面作品20点（2011年7月26日時点）
出典及び関連情報	<p>美術史・文化財保存修復学科では東北地方大震災で被災した文化財の応急処置を実施しています（東北芸術工科大学 2011/7/27付けの情報） http://www.tuad.ac.jp/newsevents/topics/newpage_20110727_154557/</p> <p>東日本大震災の被災資料を専門家と中高生とで一緒にクリーニング実際の文化財レスキューの現場を伝えます（東北芸術工科大学 2011/8/5付けの情報） http://www.tuad.ac.jp/newsevents/topics/newpage_20110805_163033/</p> <p>東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科ブログ http://gs.tuad.ac.jp/bibun/</p>



5.1 被災資料の救済(No.1～12)

		岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
No. 6	気仙沼資料保全プロジェクト(大島漁協資料救出活動)							
活動概要	<p>神奈川大学の日本常民文化研究所と歴史民俗資料学研究科のボランティアチームによる、宮城県気仙沼市の大島漁業協同組合の被災資料を救出する取組。日本常民文化研究所が漁業・漁村資料の調査等で深いつながりを持っていた気仙沼地方での支援活動。</p> <p>2011年4月末の事前調査の結果、気仙沼港の対岸の大島の漁業協同組合において、明治時代以降の多くの資料が海水による被害を受けていることが判明し、当面の短期的対応として資料を救出し保全策を講じるため、5月13日から31日の期間で実施された。研究所員・教員・職員・大学院生等で結成されるボランティアチームが、現地で集中的に水分・汚れの除去、防霉の消毒等の作業を行った。</p> <p>2011年7月30日には、神奈川歴史資料保全ネットワーク準備会主催、神奈川大学日本常民文化研究所・神奈川地域史研究会・地域史料保全有志の会の共催で開催された「大災害における文化財の救出・保全を考える緊急集会」において、同プロジェクトの報告が行われた。</p>							
実施団体・機関	神奈川大学 日本常民文化研究所・同歴史民俗資料学研究科							
受援施設・団体・機関	大島漁業協同組合（宮城県気仙沼市）							
主な参画・協力団体・機関								
実施期間	2011年5月13日～5月31日							
実績データ	救済資料数：ダンボール145箱							
出典及び関連情報	<p>気仙沼 資料保全プロジェクト（神奈川大学日本常民文化研究所） http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/cgi-bin/system/special/index.cgi 本学研究所・大学院による「被災資料救出プロジェクト」の始動について （神奈川大学 2011/5/18 付けの情報） http://www.kanagawa-u.ac.jp/pressrelease_mediapub/pressrelease/2011/05/18/003022/ 気仙沼 資料保全の記録 http://d.hatena.ne.jp/jouminbunka-1/</p>							

2011年				2012年								
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		●			●							
		●			●							
		4/28～30 事前調査			7/30 「大災害における文化財の救出・保全を考える緊急集会」							
		5/13-30 救済活動実施										

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
----	----	----	----	----	----	-----

No. 7	東京文書救援隊
活動概要	<p>図書館・アーカイブズの紙資料保存に携わってきた人々による、被災地の文書等救済支援のためのボランティア組織。2011年6月1日に発足した。メンバーの経験と技術を基に組み立てた文書復旧システムを活用し、各地の被災資料の救済支援を実施している。</p> <p>文書復旧システムは、入手が容易かつ廉価な資材を用い、処置作業もシンプルな工程の組み合わせとなっているため、専門的な処置技術のない現場でも導入が容易とされている。</p> <p>文書復旧システムの対象は、一枚もの（ポスター、新聞、地図、図面、書簡、葉書、賞状、書類等）、簿冊、ファイル文書、和装本、漢籍、小冊子・雑誌、洋装書籍、紙焼き写真等の紙資料。</p> <p>救援依頼を受けると、スタッフが現地に赴き資料等の確認を行った後、資材・作業場所・スタッフの確保の確認を経て、機材等の搬入・設営とスキル・トレーニングを実施し、実際の処置開始という手順となる。必要となるスキル・トレーニングは2日間程度とされる。</p> <p>文書復旧システムは、2012年3月までに、岩手県大船渡市福祉協議会、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク、岩手県遠野市遠野文化センター、宮城県石巻市石巻文化研究センター、群馬県立文書館、宮城県多賀城市文化センター埋蔵文化調査センター等に導入されている。また、国立公文書館による被災公文書等修復支援事業においても、岩手県宮古市、陸前高田市、山田町、宮城県気仙沼市、仙台市、石巻市で活用されている。</p>
実施団体・機関	東京文書救援隊（代表：安江明夫 元国立国会図書館副館長）
受援施設・団体・機関	被災地の図書館、アーカイブズ、役所、学校、病院、企業、寺社、個人等
主な参画・協力団体・機関	・株式会社資料保存器材（事務局設置）
実施期間	2011年6月～
実績データ	
出典及び関連情報	<p>東京文書救援隊 http://toubunq.blogspot.com/ 東日本大震災で被災した紙資料の復旧を支援する「東京文書救援隊」が活動を開始しました！ http://www.hozon.co.jp/toubunq.pdf 被災文書を復旧するー東京文書救援隊の考え方と技術（全史料協関東部会例会配布資料） http://hozon.co.jp/110913%20kantoubukai%20haihusiryou.pdf 救援隊活動の半年レポート---着実に成果をあげています http://toubunq.blogspot.com/2012/01/blog-post.html 木部徹「被災文書を復旧する東京文書救援隊の考え方と技術」（2011/09/13 全史料協関東部会例会配布資料） http://hozon.co.jp/110913%20kantoubukai%20haihusiryou.pdf</p>

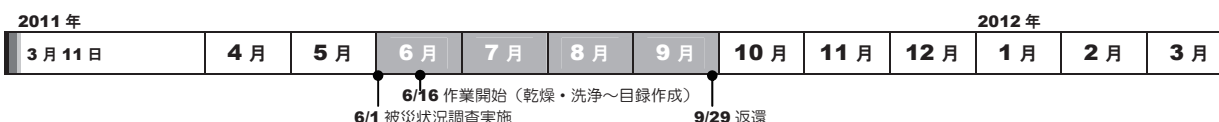
2011年						2012年						
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

6/1 発足

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 8	女川町の公文書の救済活動
活動概要	<p>群馬県立文書館が、宮城県女川町からの要請に基づき、津波で被災した同町の公文書の一部の救済を実施した。</p> <p>2011年6月に群馬県立文書館職員が被災地の公文書被災状況調査を実施した際に、女川町から公文書救済の要望を受け、同月中旬に現地へ赴き文書を群馬県に発送し、6月16日から文書館で乾燥作業を開始した。7月下旬からドライクリーニング作業、8月中旬から水洗作業、8月下旬から再編綴作業が行われた。9月中旬から目録作成・発送準備が行われ、9月29日に女川町に返還された。</p> <p>作業には、東京文書救援隊の文書復旧システムが用いられた。群馬県立文書館のウェブサイトで、乾燥作業の手順等が公開されている。</p>
実施団体・機関	群馬県立文書館
受援施設・団体・機関	宮城県女川町
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年6月1日～9月29日
実績データ	復旧が完了した文書：計339冊 うち女川町税務課課税関係文書126冊、女川町町民課戸籍関係文書213冊
出典及び関連情報	<p>宮城県女川町の被災公文書の救済活動（群馬県立文書館） http://www.archives.pref.gunma.jp/20110311-hisaibunso/20110311-hisaibunso.htm</p> <p>東日本大震災の津波被害を受けた公文書の救済（（教）文書館）（群馬県文書館 2011/6/20付けの情報） http://www.pref.gunma.jp/houdou/y3200001.html</p> <p>女川町被災公文書の復旧作業の完了と公文書の返還について（文書館）（群馬県文書館 2011/9/22付けの情報） http://www.pref.gunma.jp/houdou/y3200002.html</p> <p>群馬県立文書館の被災公文書救済活動で東文救文書復旧システムが活用されています（東京文書救援隊 2011/8/30付けの記事） http://toubunq.blogspot.com/2011/08/blog-post_2617.html</p>



5.1 被災資料の救済 (No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 9	セーブ・ザ・メモリープロジェクト
活動概要	<p>株式会社リコーが実施する、被災した写真の救済プロジェクト。被災地の地方自治体と連携し、地震・津波で被災した写真やアルバムを洗浄・デジタル化して、写真原本とともに被災者に渡す。 デジタル化した写真データは、オンラインストレージサービス（クラウド）の「クオンプ」に保管され、各自治体に設置された写真センター内の検索端末で写真を検索し、その後、各自治体を通して写真とデータが被災者に届けられる。</p> <p>2012年3月現在、宮城県南三陸町、岩手県陸前高田市、宮城県女川町に写真センターが開設されている。</p>
実施団体・機関	株式会社リコー
主な参加・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> 各地方自治体 リコージャパン株式会社、富士通株式会社、東北リコー株式会社、株式会社アクセス、リコーITソリューションズ株式会社、株式会社オフィス・サウス、リコーロジスティクス株式会社、三愛ロジスティクス株式会社、リコーテクノシステムズ株式会社
実施期間	2011年8月8日～
実績データ	<p>登録写真数：南三陸町 88,176枚 陸前高田市54,884枚 女川町 42,375枚（2012.3.6現在）</p>
出典及び関連情報	<p>セーブ・ザ・メモリープロジェクト http://savethememory.jp/</p> <p>被災地で救済された写真やアルバムをデジタル化しお渡しする復興支援活動「セーブ・ザ・メモリー プロジェクト」を開始（リコー 2011/8/8付けのプレスリリース） http://www.ricoh.co.jp/release/2011/0808_1.html</p>



5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 10	東日本大震災被災地域資料デジタル化レスキュー事業
活動概要	<p>岩手県の陸前高田市立図書館及び大槌町立図書館の津波被害にあった地域資料を回収し、可能な範囲でクリーニングを行うと同時に、資料をデジタル化して、地域の歴史や文化を伝える地域資料の保存を行う事業。山梨県のNPO 法人地域資料デジタル化研究会が中心となって実施している。</p> <p>津波被害にあった資料をドライ方式・ウェット方式でクリーニングし、デジタルカメラ・イメージスキャナによるデジタル化を行い、検索可能なメタデータを付与してアーカイブし、それぞれのデータを取りまとめる作業が行われた。</p>
実施団体・機関	NPO法人地域資料デジタル化研究会
受援施設・団体・機関	岩手県陸前高田市立図書館 岩手県大槌町立図書館
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨県公共図書館職員有志 ・ 都留文科大学 ・ 天野三洋株式会社、 ・ システムインナカゴミ ・ ボランティアグループ孝進会 ・ 山梨県北杜市 ・ 大津山実相寺
実施期間	2011年8月末～2012年3月末
実績データ	
出典及び関連情報	東日本大震災 被災地域資料デジタル化レスキュー事業（事業の概要） http://www.digi-ken.org/RESCUE/rescue2011.html

2011年						2012年						
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						●						
						8/29 レスキュー開始						
											(3月末終了予定)	

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

		岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
No. 11	被災公文書等修復支援事業							
活動概要	<p>国立公文書館による、被災地での被災公文書等の修復支援事業。岩手県及び宮城県下の被災自治体からの要請に基づき、実際に被災した公文書等の修復作業を通じた研修を行い、現地において被災公文書等の修復に当たる人材を育成することで、各自治体における被災公文書等の早急な修復を支援することを目的とする。</p> <p>2011年9月に岩手県宮古市からの要請に基づいた活動を実施し、現地での修復事業にあたる人材育成を行い、被災公文書等の修復を支援した。技術指導に当たる講師や職員を現地に派遣し、修復補助員を宮古市内在住者から雇用。事業で使用した機材等は終了後に宮古市に提供し、同市が引き続き修復事業を行う。主な対象は、住民の生活に関わる基礎台帳、歴史的に重要な古文書。</p> <p>2012年1月から内閣府から被災公文書等修復支援事業費補助金を受けて実施されており、国立国文書館職員及び外部講師（東京文書救援隊）を現地に派遣し、被災公文書等の洗浄、乾燥、搬出、整理等を通じた研修を行った。修復研修生は公募で、市の推薦に基づいて採用し、同館が教材を準備した。修復作業においては東京文書救援隊の考案した修復システムが活用されている。</p>							
実施団体・機関	国立公文書館							
受援施設・団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県宮古市 ・岩手県陸前高田市、山田町、気仙沼市 ・宮城県仙台市、石巻市（女川町分も含んで実施） 							
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・東京文書救援隊 							
実施期間	<p>[宮古市] 2011年9月12日～30日</p> <p>[陸前高田市] 2012年1月16日～3月9日</p> <p>[気仙沼市] 2012年1月16日～3月9日</p> <p>[仙台市] 2012年1月23日～3月2日</p> <p>[石巻市（女川町分も含む）] 2012年2月6日～3月30日</p> <p>[山田町] 2012年2月20日～3月30日</p>							
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古市での修復実績：30冊（5,036枚） ・宮古市内から雇用した修復補助員実人数：8名、延べ104人日 							
出典及び関連情報	<p>宮古市における被災公文書等の修復支援事業の実施について（国立公文書館2011/9/7付けの情報）http://www.archives.go.jp/news/110907_01.html</p> <p>宮古市における被災公文書等の修復支援事業の実施について（国立公文書館2011/10/24付けの情報）http://www.archives.go.jp/news/20111021171211.html</p> <p>被災公文書等修復支援事業の実施について（国立公文書館）http://www.archives.go.jp/top/111216_01.html</p>							

2011年				2012年									
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
						●				●			
						（宮古市）9/12～30							（その他の地域）2012/1/16～3/30 終了

5.1 被災資料の救済(No.1～12)

岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
----	----	----	----	----	----	-----

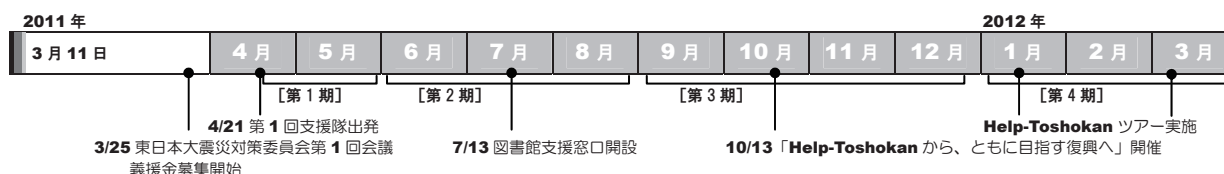
No. 12	野田村立図書館の郷土資料の救済支援活動
活動概要	<p>国立国会図書館による、津波で被害を受けた岩手県野田村立図書館が所蔵する郷土資料の救済を支援する事業。東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の一環として実施。</p> <p>岩手県立図書館を通して救援要請を受けた国立国会図書館が、2011年5月末から6月初めにかけて収集書誌部資料保存課の職員を現地に派遣し、岩手県立図書館等の協力を得ながら、被災資料の中から郷土資料 241 点を選別し、資料の清掃・乾燥・一次避難等の救済支援を行った。</p> <p>その後、文化財レスキュー事業として、国立国会図書館が、2011年11月下旬から2012年3月頃にかけて、資料救済支援を実施。上記の241点のうち、近隣図書館からの寄贈で交換できなかった220点の資料から、状態の良い資料等を除いた130点を国立国会図書館に運び、資料保存課で救済処置を実施した。</p> <p>郷土資料の中には、地元の民俗や歴史関連の資料のほか、子どもたちの手紙を集めた文集等も含まれている。</p>
実施団体・機関	国立国会図書館
受援施設・団体・機関	岩手県野田村立図書館
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県立図書館 ・野田村立図書館の近隣図書館
実施期間	2011年11月下旬～2012年3月頃
実績データ	<p>選別した被災資料：241点</p> <p>うち国立国会図書館で救済処置を実施した資料：130点</p>
出典及び関連情報	<p>国立国会図書館による被災図書館所蔵郷土資料の救済支援について（国立国会図書館2011/11/30付けの報道発表資料）</p> <p>http://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2011/_icsFiles/afieldfile/2011/12/02/pr111130.pdf</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 13	Help-Toshokan (被災地図書館支援隊)
活動概要	<p>日本図書館協会による、関連団体・個人との共同によって被災地の図書館の活動を支援するプロジェクト。被災状況の視察や現地との協議をしながら、2011年4月から、ボランティアの募集・被災地への派遣、研修・講習会の開催、図書の寄贈や自動車図書館等の仲介・斡旋、国・文部科学省への要請・提言準備等の、直接的・間接的支援を実施している。</p> <p>[第1期] 宮城県気仙沼市を中心に図書館分館や避難所への配本、読み聞かせ、上映会等。</p> <p>[第2期] ボランティアのマッチングを行う「東日本大震災に関する図書館支援窓口」の開設 (7/13)、簡易修理ボランティアの養成・派遣、新聞の欠号補充、自動車図書館の情報提供・斡旋、ブックコーティング講師の派遣等。</p> <p>[第3期] 東日本大震災図書館支援情報交換会の開催 (9/26)、各地公共図書館への「福島民報」「福島民友」の寄贈、研修の実施、寄贈図書・自動車図書館の仲介等。</p> <p>[第4期] 研修の実施、自動車図書館の仲介、被災地図書館写真の貸出し、被災地の図書館を訪れるツアー (岩手1/21-23、宮城3/2-4) の実施等。</p>
実施団体・機関	社団法人日本図書館協会 [震災対策委員会]
受援施設・団体・機関	宮城県気仙沼市図書館 (図書の寄贈/読み聞かせ/移動図書館の寄贈)、福島県矢吹町図書館 (蛍光灯破片の除去)、茨城県立図書館、茨城県潮来市立図書館 (以上、製本講習会)、宮城県石巻市図書館 (コーティング)、宮城県名取市図書館 (移動図書館の寄贈) ほか
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (宿泊所の提供) ・社団法人日本新聞協会 (新聞欠号補充、地方版・地方紙の保存・提供等) ・株式会社日本ブッカー (フィルムコーティング講習会の開催) ・キハラ株式会社 (ブックトラックの寄贈、製本講習会の開催) ・<大震災>出版対策本部・日本書籍出版協会・読売新聞 (図書の寄贈) ・大活字普及協会 (大活字図書の寄贈) ・静岡県三島市立図書館、北海道岩見沢市立図書館 (移動図書館の提供) ・saveMLAKプロジェクト (Help-Toshokanツアー) ほか
実施期間	(第1期) 2011年4月～5月 (①4/21～24 ②5/12～15 ③5/19～22 ④5/26～29) (第2期) 2011年6月～8月 (第3期) 2011年9月～12月 (第4期) 2012年1月～3月
実績データ	参加者数：(第1期) 約50人 (第2期) 延べ105名
出典及び関連情報	<p>東日本大震災について (日本図書館協会) http://www.jla.or.jp/home/earthquake/tabid/67/Default.aspx</p> <p>[イベント] 第97回全国図書館大会シンポジウム「Help-Toshokanから、ともに目指す復興へ」(2011/10/13 調布市グリーンホール)</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
----	----	----	----	----	----	-----

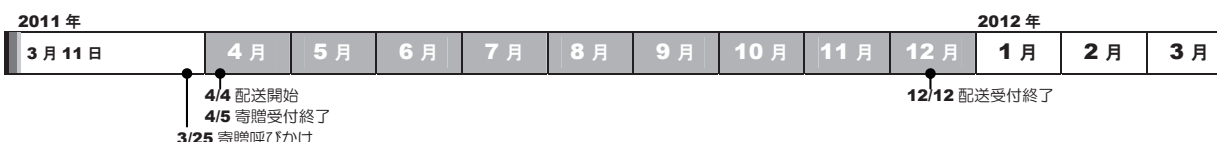
No. 14	図書館振興財団による支援活動
活動概要	<p>図書館振興財団による被災地の図書館への支援活動。2011年3月25日に、2011年度(平成23年度)の助成事業計画を変更し、被災した図書館に対する支援を行うことを発表した。</p> <p>財源には、同財団の運用資金から取り崩した1億円及び事業費からの5000万円と、森ビル、東京大学出版会、日本出版クラブ、図書館流通センターの4団体からの寄付金が用いられた。</p> <p>対象は青森県、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、千葉県内の公共図書館及び学校図書館とされ、図書館活動の再開に必要な事物の支給として実施された。</p> <p>被災図書館からの支援要請に基づき、プレハブから書架、ブックトラック、図書、滑り止めシートまで、多岐にわたる支援が実施された。</p> <p>2011年10月28日に、予定額を超える可能性が出てきたため、2011年度の支援要請の受付が締め切られた。ウェブサイトの支援リストには、被災5県の計58機関に対する支援内容が掲載されている(2011年12月2日現在)。</p>
実施団体・機関	財団法人図書館振興財団
受援施設・団体・機関	被災地の図書館(公共図書館及び学校図書館)
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・森ビル株式会社 ・財団法人東京大学出版会 ・財団法人日本出版クラブ ・株式会社図書館流通センター
実施期間	2011年3月25日～
実績データ	<p>支援機関数：58機関(5県)</p> <p>支援総額：121,744,283円(2011年12月2日現在)</p>
出典及び関連情報	<p>図書館振興財団http://www.toshokanshinko.or.jp/</p> <p>支援先一覧(図書館振興財団) http://www.toshokanshinko.or.jp/jigyoushiensaki.htm</p> <p>東日本大震災で被災された図書館からの支援要請の受付を終了しました。 (図書館振興財団 2011/10/28付けお知らせ) http://www.toshokanshinko.or.jp/news/kako03.htm#01</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13~39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

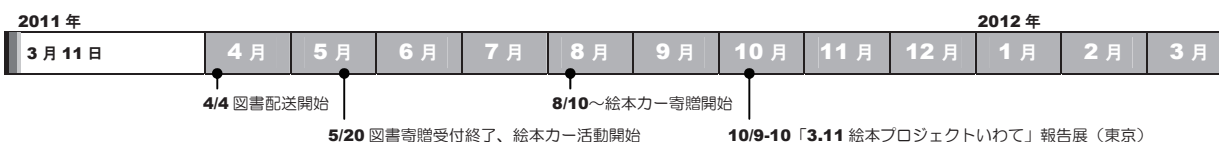
No. 15	「ちっちゃん図書館」プロジェクト
活動概要	<p>公益財団法人日本ユニセフ協会が、被災地の避難所での「子どもにやさしい空間」づくりの一環として実施した、被災地の子どもに絵本や児童書を届けるプロジェクト。日本ユニセフ協会の東日本大震災緊急支援活動の1事業。</p> <p>2011年3月25日に全国に向けて0~14才までを対象とした絵本・児童書等の寄贈を呼びかけ、日本国際児童図書評議会（JBBY）が推薦する児童書と、日本ユニセフ協会に寄贈された本を組み合わせ「ユニセフちっちゃん図書館セット」（絵本や紙芝居を中心とした「乳幼児セット」と児童書中心の「小中学生セット」の2種類）を作り、寄贈を希望する被災地被災地の避難所、小中学校、幼稚園・保育園、学童施設、子育て支援グループ等の団体、被災者個人に送付した。</p>
実施団体・機関	公益財団法人日本ユニセフ協会
受援施設・団体・機関	・被災地の避難所、保育園・幼稚園、学校、コミュニティ
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国際児童図書評議会（JBBY） ・電通社会貢献・環境推進部（配送用BOXのデザイン、ロゴの制作）
実施期間	2011年3月25日（寄付の呼びかけ開始）～12月12日（配送の受付終了）
実績データ	配送数：約33万冊（6,500セット以上）
出典及び関連情報	<p>日本ユニセフ協会 東日本大震災緊急募金 http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011.htm 東日本大震災緊急募金 第14報 えほんをおくろう。えがおをおくろう。東日本大震災で被災した子どもたちのために、「ユニセフ ちっちゃん図書館」プロジェクトをスタート（日本ユニセフ協会 2011/3/25付けの情報） http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011_0325_02.htm 東日本大震災緊急募金 第130報ユニセフ「ちっちゃん図書館」プロジェクト 受付終了！30万冊以上の善意が被災地の子どもの元へ（日本ユニセフ協会 2011/12/12付けの情報） http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011_1213.htm 緊急・復興支援活動1年レポート http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/images/btn_1year_report_on.gif</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 16	3.11 絵本プロジェクトいわて
活動概要	<p>岩手県八幡平市在住の児童図書編集者で、元国際児童図書評議会 (IBBY) 理事の末盛千枝子氏の発案による、被災地の子どもたちのために絵本や募金を集め、絵本を届けるプロジェクト。被災地の子どもたちを心配する声を世界から寄せられた末盛氏が事務局代表となり、盛岡市中央公民館やNPO 法人等の協力で実施されている。</p> <p>絵本の寄贈及び絵本の購入や運搬にあてる活動支援金を募集し、岩手県内の被災地域に絵本を届ける活動を行っているほか、移動図書館車「えほんカー」を計 6 台製作、うち 5 台を岩手県の大槌町、宮古市、釜石市、普代村、大船渡市の自治体及び団体に寄贈した。</p> <p>本の整理や発送作業等に携わったボランティアは、2012 年 2 月時点で延べ 3,000 人を超える。</p>
実施団体・機関	3.11絵本プロジェクトいわて
受援施設・団体・機関	岩手県内市町村 (絵本カー寄贈先：大槌町、宮古市・読み聞かせグループ、釜石市、普代村、大船渡市読み聞かせグループ)
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人参画プランニング・いわて ・NPO法人いわてアートサポートセンター ・盛岡市婦人ボランティア野の花会 ・盛岡教育事務所 ・日本国際児童図書評議会 (JBBY) (特別後援) ・林田製作所、竹内ボデー (えほんカー製作) ・日本郵便 (えほんカー助成金交付)
実施期間	2011年4月～
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> ・開梱済み件数 : 5,820件 231,906冊 ・配布済み絵本 : 225か所 81,750冊 ・活動支援金合計 : 20,493,213円 ・えほんカー台数 : 6台完成 (うち5台寄贈) (2012/3/5 現在)
出典及び関連情報	<p>3.11 絵本プロジェクトいわて http://www.ehonproject.org/iwate/index.html ニュース (3.11絵本プロジェクトいわて) http://www.ehonproject.org/iwate/news.html</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13~39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 17	心のとしょかんプロジェクト
活動概要	<p>被災者を励ます「心のとしょかん指定図書」を選定し、インターネット書店 Amazon.co.jp の「ほしいものリスト」等を活用して寄贈を募り、リサイクルが可能なダンボール製の本棚に入れて避難所に設置するプロジェクト。</p> <p>100箇所を設置を目標に掲げて、2011年4月4日の東京武道館への設置を皮切りに、女川町総合体育館や女川町第一小学校等の避難所、気仙沼市の仮設住宅等、宮城県内の避難所や仮設住宅等への本棚の設置及び図書館への図書の寄贈を行っている。</p> <p>避難所の終了時には住民が図書を持ち帰り、ダンボール製の本棚はリサイクルされる。</p>
実施団体・機関	心のとしょかんプロジェクト（代表：山中善昭氏）
受援施設・団体・機関	被災地の避難所・仮設住宅等
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年4月～
実績データ	「心のとしょかん」設置場所：26か所（2011年12月時点）
出典及び関連情報	<p>心のとしょかんプロジェクト http://www.facebook.com/kokoronotoshokan 心のとしょかんプロジェクト—被災地にちいさな図書館を贈ろう（基本データ） http://ja-jp.facebook.com/kokoronotoshokan?sk=info 「心のとしょかんプロジェクト」始動します。（山中義昭氏のブログ 2011/3/30付けの記事） http://ameblo.jp/yoshiakiyamanaka/entry-10846037106.html</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 18	「日本の力を信じてる！！」プロジェクト
活動概要	<p>株式会社トーハンによる、被災地への図書寄贈やチャリティ企画等、本を通じた復興支援活動。図書寄贈においては、出版社、地域書店と協力し、「本の力」で被災地を励ますメッセージを込めるとともに、被災者の状況を考慮し、人気コミックやベストセラー小説や詩集、実用書等、楽しめる本や今役に立つ本がセットとされた。</p> <p>4月14日から16日にかけて、岩手、宮城、福島各県の避難所10か所に寄贈図書を届けた。寄贈した本は、書店支援の立場から、被災地の書店を通じて購入されている。</p> <p>また、同社は、医療従事者向けの電子書籍サイト「Medical e-hon」では災害医療関連コンテンツの無料配信を行った。</p>
実施団体・機関	株式会社トーハン
受援施設・団体・機関	被災地各県
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年4月～2012年3月
実績データ	寄贈図書数：66冊セット×避難所10か所（2011/4/14～16）
出典及び関連情報	<p>復興支援「日本の力を信じてる！！」プロジェクトをスタート～1年間にわたり「本の力」で復興を支援～（トーハン 2011/4/6付けのニュースリリース） http://www.tohan.jp/whatsnew/news/post_174/</p> <p>「日本の力を信じてる！！」プロジェクト 被災地の避難所10カ所を訪問し図書を寄贈～人気コミックやベストセラー小説等66冊を選びすぐり～（トーハン 2011/4/18付けのニュースリリース） http://www.tohan.jp/whatsnew/news/10_3/</p>

2011年				2012年								
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

4月事業開始、4/14～16 避難所への図書寄贈

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 19	<大震災>出版対策本部による支援活動
活動概要	<p>日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版クラブの3団体が立ち上げた「<大震災>出版対策本部」による被災地支援活動。図書の寄贈に関しては、出版社から寄贈を募り、被災地の避難所、学校図書館等に寄贈を行った。</p> <p>また、同本部は、岩手県陸前高田市に建設された子ども向け図書館「にじのライブラリー」にも協力を行っている。</p>
実施団体・機関	日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版クラブ
受援施設・団体・機関	被災地の避難所、学校図書館等
主な参画・協力団体・機関	出版各社
実施期間	2011年3月23日～ (2011年4月から7月にかけて、7回にわたり寄贈)
実績データ	<p>[図書寄贈先]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所39か所、学校図書館24か所、団体（ボランティア等）7か所、公共図書館3か所 ・岩手県30か所、宮城県25か所、福島県10か所、その他8か所 <p>[寄贈冊数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄贈数：約110,000冊 ・集まった図書数：約180,000冊（2,015点） ・寄贈出版社数：120社
出典及び関連情報	<p><大震災>出版対策本部「図書寄贈プロジェクト」被災者方向け図書寄贈の報告2 (出版対策本部 2011/7/26付けの発表) http://www.shuppan-taisaku.jp/wp-content/uploads/2011/07/houkoku0726.pdf</p> <p>対策本部活動概要（3月～10月） http://www.shuppan-taisaku.jp/wp-content/uploads/2011/10/document20111024.pdf</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 20	「避難所へ本を」プロジェクト
活動概要	<p>東北大学附属図書館による、東北大学の教職員から寄せられた図書を避難所に届けるプロジェクト。</p> <p>2011年5月までに約900冊の書籍を、公共図書館のサービスのめどが立たない地域に届け、その後も活動を継続している。書籍は現地の迷惑にならないよう状況を見定めつつ、地域の各種ボランティアグループ等と連携・協力して届けている。</p>
実施団体・機関	東北大学附属図書館
受援施設・団体・機関	宮城県亘理町、山元町、名取市
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年4月～
実績データ	寄贈図書数：約900冊（2011年5月時点）
出典及び関連情報	「避難所へ本を」プロジェクト実施中（東北大学附属図書館 2011/5/12付けのお知らせ） http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=302

2011年				2012年								
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

4月事業開始 約900冊現地寄贈（～5月）

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

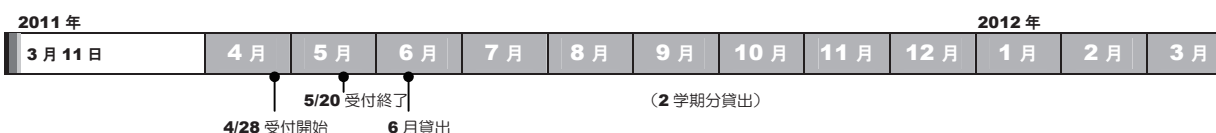
No. 21	被災地への移動図書館車の寄贈・貸与
活動概要	<p>被災地以外の自治体等から、被災地の自治体に対し、移動図書館車の寄贈や貸与を行う活動。</p> <p>滋賀県東近江市は、2011年4月に、岩手県陸前高田市に移動図書館車と図書約5,000冊を寄贈した。現地に届ける際には図書館司書も同行し、取り扱いを一般ボランティアでもできるようにフォローを行った。</p> <p>東京都東大和市は、2011年5月から11月までの間、移動図書館車を宮城県石巻市に貸与した。</p> <p>熊本市は、2011年7月から11月の間、宮城県東松島市に移動図書館車を貸与した。市立図書館から集められた図書や応援メッセージを積んで届けられ、東松島市では、仮設住宅や市民センター、学校、子ども会等を巡回した。</p> <p>日本図書館協会は、2011年7月に、宮城県気仙沼市に対して、静岡県三島市で使用されていた図書館車を、新しい移動図書館車が到着するまでの間の使用のためとして寄贈した。また、9月には、北海道岩見沢市から同協会を通じて宮城県名取市に移動図書館車が寄贈された。</p> <p>2012年2月には、岩手県大槌町に、株式会社ニッセンから日本ユネスコ協会連盟を通じて移動図書館車が寄贈された。</p>
実施団体・機関	滋賀県東近江市、熊本県熊本市、 <u>社団法人日本図書館協会</u> 、静岡県三島市、株式会社ニッセンほか
受援施設・団体・機関	岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、宮城県気仙沼市、岩手県大槌町 ほか
主な参画・協力団体・機関	日本ユネスコ協会連盟
実施期間	2011年4月～
実績データ	寄贈図書数：(東近江市) 約5,000冊 (子ども向け3,500冊、一般向け1,500冊) (熊本市) 2,500冊、しおり13,770枚
出典及び関連情報	<p>週末、陸前高田市へ移動図書館車を届けます(東近江市長のブログ 2011/4/14付けの記事) http://www.city.higashiomi.shiga.jp/mayorblog/?p=2813</p> <p>東近江市が移動図書館車を本市に寄贈(広報りくぜんたかた臨時号32 2011/4/18付け) http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/shisei/kouhou/rinji/rinji-pdf/koho32_20110418.pdf</p> <p>ありがとう!!図書館バス・ラストラン(東松島市図書館) http://www.lib-city-hm.jp/lib/010.BMlastrun/lastrun.html</p> <p>[新聞記事] 熊本市、被災地に本2500冊贈る 移動図書館車も貸与(朝日新聞2011年7月6日)</p> <p>「Help・Toshokan」第2期支援活動(日本図書館協会) http://www.jla.or.jp/home/earthquake/tabid/346/Default.aspx</p> <p>移動図書館車『なかよし共和国』を岩手県大槌町へ寄贈(株式会社ニッセン 2012/2/17付け) http://www.nissen-hd.co.jp/ir/pdf/IR_12_02_17_1.pdf</p> <p>[新聞記事] 「移動図書館 無償で貸し出し 石巻市等に 東大和市、要請受け快諾」『読売新聞』2011.5.19.</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 22	被災地に対する「学校図書館セット」貸出
活動概要	<p>国立国会図書館国際子ども図書館による、「学校図書館セット」を被災地やその周辺の学校に往復の送料無料で貸し出す取組。</p> <p>セットは「国際理解」をテーマとし、子どもたちが本を通して世界の国々や人々への理解と共感を深められるよう、世界の国・地域に関する資料、現地で親しまれている昔話や絵本、さらにそうした絵本の原書等、幅広い分野の資料約50冊で構成。</p> <p>以前から全国の学校図書館等に向けて実施している事業だが、通常は必要となる返却にかかる送料が無料となっている。</p> <p>2011年4月28日から5月20日の期間、青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉の6県の学校図書館とこれに準ずる施設からの申し込みを受け付け、6月に、応募のあった学校すべてに貸出を行った。</p> <p>2011年9月以降の2学期、3学期分の貸出については、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の学校に対して往復の送料負担を行う。</p>
実施団体・機関	国立国会図書館 国際子ども図書館
受援施設・団体・機関	青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県内の学校図書館
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年4月～
実績データ	
出典及び関連情報	東日本大震災 復興のための支援 (国立国会図書館国際子ども図書館) http://www.kodomo.go.jp/promote/school/rent/support.html



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 23	子どもたちへくあしたの本>プロジェクト
活動概要	<p>日本国際児童図書評議会、日本ペンクラブ日本出版クラブ、出版文化産業振興財団の呼びかけで立ち上がった、被災地の子どもたちに安らぎや楽しみを提供するための、本に関わる活動を行うプロジェクト。現地と協力しつつ、次のような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館バスで被災地を訪問し、子どもたちに本を提供する。 ・紙芝居、ストーリー・テリング、読み聞かせ、人形芝居等を実施する。 ・子どもの本の作家や画家が子どもたちと交流する。 ・被災地以外でも、原画展や講演会を行って寄付金を集める。 <p>2011年4月から、本を通して子どもと大人と一緒に遊べるような「だいじょうぶだよ」セット（布の絵本やボードブック等と布の遊具や文房具のセット）を病院や避難所等への配布を開始しており、5月にプロジェクトとして発足した。</p> <p>図書館バス（移動図書館車）は、被災地を個別に訪問するだけでなく、10月からはセブン&アイ・ホールディングスの協力を得て、宮城県内の同社の店舗への巡回を開始した。</p> <p>11月には陸前高田市に子ども図書館「にじのライブラリー」が開館した。</p>
実施団体・機関	くあしたの本>プロジェクト
受援施設・団体・機関	岩手県、宮城県、福島県等の被災地
主な参画・協力団体・機関	<p>[呼びかけ団体] <u>社団法人日本国際児童図書評議会 (JBBY)</u>、<u>社団法人日本ペンクラブ (P.E.N.)</u>、<u>財団法人日本出版クラブ (JPC)</u>、<u>財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)</u></p> <p>[協力団体・個人] <大震災>出版対策本部、三井物産株式会社、株式会社セブンアンドアイ・ホールディングス等多数</p> <p>[オークション協力、布の絵本等提供] 多数</p>
実施期間	2011年4月～
実績データ	移動図書館車の車載冊数：絵本・児童書 約2,000冊
出典及び関連情報	<p>子どもたちへくあしたの本>プロジェクト http://www.jbby.org/ae/</p> <p><あしたの本>プロジェクト移動図書館車初の巡回運行スタート（セブン&アイ・ホールディングス 2011/10/18 付けプレスリリース） http://www.7andi.com/news/pdf/2007/2011-1018-1558.pdf</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

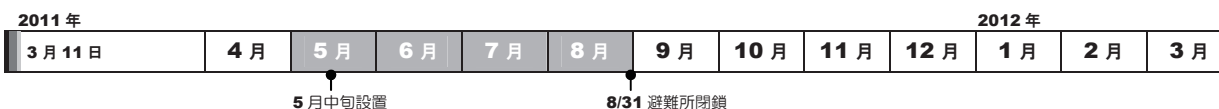
No. 24	東日本大震災「いっしょだよ」キャンペーン
活動概要	<p>大阪国際児童文学館、大阪書店商業組合、毎日新聞社等による、被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫等に、子どもの本を購入して贈るための寄付金を募るキャンペーン。寄贈先にふさわしい本を選択するという趣旨から、本自体の寄贈は受け付けていない。</p> <p>寄付金がある程度集まったところで配布先を募集し、配布にあたっては、配布先の施設や子どもの人数、年齢等に応じて適切な本を購入し、本の汚損防止の保護カバーをつけて届けられた。</p> <p>2011年9月から2012年2月までの5次にわたり、岩手・宮城・福島の各県の児童館、保育所、幼稚園、小学校等に送られた。</p>
実施団体・機関	財団法人大阪国際児童文学館（事務局）、大阪書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団
受援施設・団体・機関	岩手県、宮城県、福島県の児童館、保育所、幼稚園、小学校等
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年4月末～2012年2月
実績データ	<p>配布数：（第1次：2011年9月13日発送）872冊・16か所 （第2次：2011年10月5日発送）83,284冊・59か所 （第3次：2011年11月25日までに発送）84,385冊・55か所 （第4次：2012年1月26日発送）88,865冊・186か所 （第5次：2012年2月10日発送）8,928冊・19か所</p>
出典及び関連情報	<p>東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』募金のお願い！（財団法人大阪国際児童文学館） http://www.iiclo.or.jp/book.html</p> <p>[新聞記事]</p> <p>「東日本大震災：本読める生活、取り戻したい 被災の岩手・陸前高田」『毎日新聞』2011.04.30.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 1次配布分、宮城・福島へ」『毎日新聞』2011.09.14.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 3284冊、4都県59カ所に」『毎日新聞』2011.10.07.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 4385冊、3県55カ所に配布」『毎日新聞』2011.11.26.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 第4次配布先決定」『毎日新聞』2012.01.26.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 第4次配布先決定」『毎日新聞』2012.01.26.</p> <p>「希望新聞：東日本大震災 いっしょだよキャンペーン 5次配布、3県19施設に」『毎日新聞』2012.02.14.</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 25	「ビッグパレット図書室」設置
活動概要	<p>福島県郡山市の複合施設「ビッグパレットふくしま」に避難した福島県富岡町、川内村の住民のために、施設内の一角に、図書コーナー「ビッグパレット図書室」を設置する取組。</p> <p>両町村が福島県立図書館から借り受けた本 1,000 冊に加え、江戸川東部図書館及び図書館流通センターが図書 500 冊ずつを寄贈し、児童書や小説約 2,000 冊の図書室となった。避難者だけでなく、避難所で働くボランティアや町職員にも貸し出された。</p> <p>開設に当たっては、図書館振興財団がダンボール製書架 12 台を寄贈するとともに、図書館流通センターが書架の組立、配架作業等の支援を行った。</p>
実施団体・機関	
受援施設・団体・機関	富岡町、川内村（避難所住民）
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県立図書館 ・江戸川区東部図書館 ・<u>図書館流通センター（TRC）</u> ・<u>財団法人図書館振興財団</u>
実施期間	2011年5月中旬～8月31日（避難所閉鎖）
実績データ	蔵書数等：ダンボール製書架12台、図書約2,000冊（開設時）
出典及び関連情報	<p>富岡町図書館・川内村公民館 ビッグパレット図書室が開設されました（図書館流通センター） http://www.trc.co.jp/information/110518_tomioka.html [新聞記事]「東日本大震災：郡山の「ビッグパレットふくしま」、避難所に図書室完成／福島」『毎日新聞』2011.5.18.</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

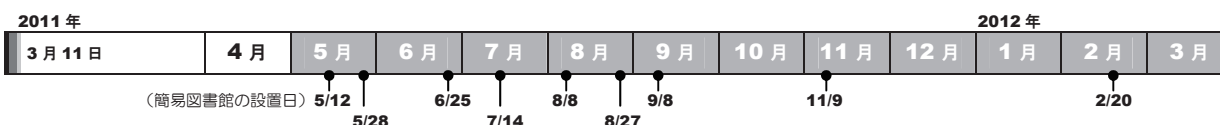
No. 26	「女川ちゃっこい絵本館」
活動概要	<p>絵本図書館を開館するために準備していた 4 万冊の絵本が津波で流されてしまった宮城県女川町での、絵本図書館の開設を支援する取組。</p> <p>日本ユニセフ協会が実施している「ちっちゃな図書館」プロジェクトや、他の市民団体、企業等から絵本約 5,000 冊が集まり、同協会が「子どもに優しい空間」支援の一環として本棚やマット等を用意。部屋や本の陳列等のデザイン面では、「ちっちゃな図書館」プロジェクトに協力したクリエイターが参画した。</p> <p>2011 年 5 月 10 日、女川町立第二小学校の 3 階の一角に「女川ちゃっこい絵本館」が開設された。7 月 25 日には、同小学校内の 2 階にある「女川町民具資料室」へと移転した。</p>
実施団体・機関	公益財団法人日本ユニセフ協会（当初の計画は女川町）
受援施設・団体・機関	宮城県女川町
主な参画・協力団体・機関	・電通ソーシャル・デザイン・エンジン（デザイン）
実施期間	2011年5月10日（開設）、7月25日（移転）
実績データ	蔵書数：約5,000冊（開館時）
出典及び関連情報	<p>ユニセフ東日本大震災緊急募金 第53報「ちっちゃな図書館」が「ちゃっこい絵本館」に（日本ユニセフ協会 2011/5/11付けの情報） http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011_0511.htm</p> <p>『女川ちゃっこい絵本館』リニューアルオープン（こうほう女川 2011年8月号） http://www.town.onagawa.miyagi.jp/kouhou/2011_08.pdf</p> <p>「女川ちゃっこい絵本館」がリニューアルオープン！（女川町）（うちどく.com） http://uchidoku.com/index.php?key=joq0jzslq-145#_145</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13~39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

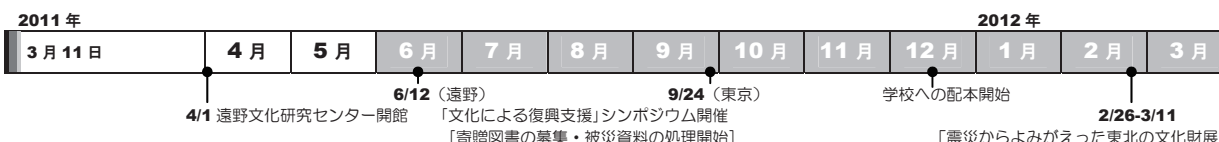
No. 27	「みんなのとしょかん」プロジェクト
活動概要	<p>被災地に本や本棚のみを送って後の運営を任せるのではなく、「図書館まるごと」を支援しようとするプロジェクト。本だけでなく、本を簡単に管理できる仕組み、本を陳列する棚、本を保管できる簡易な建物等を一式として提供することで、ボランティアや行政担当者の負担の軽減を図る。</p> <p>2011年5月から、宮城県石巻市、宮城県東松島市、岩手県大船渡市、宮城県亶理町の9か所に簡易図書館を設置。今後、宮城県石巻市、塩竈市、山元町、岩手県陸前高田市、福島県南相馬市等に設置予定。</p> <p>また、プロジェクトの一部として被災地での創業支援セミナーやパソコン教室等も開始している。</p>
実施団体・機関	一般社団法人みんなのとしょかん (代表：川端秀明氏、事務局は栃木県足利市、現地拠点は石巻市)
受援施設・団体・機関	宮城県石巻市、東松島市、亶理町、岩手県大船渡市
主な参画・協力団体・機関	(図書館スペース) 一隅を照らす運動総本部、サムライフクトリー(書籍支援)、足利市立山前小学校等18団体 (キッズスペース) 東京おもちゃ美術館等7団体 (2012年2月20日現在)
実施期間	2011年5月～
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> 簡易図書館の設置箇所：次の9か所(日付けは開設日) 石巻市湊中学校内(2011年5月12日)、石巻市河北地区福地(5月28日)、石巻市渡波地区(6月25日)、東松島市大塩地区(7月14日)、大船渡市綾里地区(8月8日)、亶理町亶理いちごっこ内(8月27日)亶理町公共仮設ゾーン集会所内(9月8日)、石巻市トゥモロービジネスタウン集会所内(11月9日)、石巻市立町石巻センター館(2012年2月20日) 書籍支援：サムライフクトリー12,000冊、PTA関係並びに個人240名以上 約13,000冊 等
出典及び関連情報	「みんなのとしょかん」プロジェクト http://niccora.jp/minnanotoshokan/ 「石巻の商店街にミニ図書館 足利の川端さん、開館 全国からの寄贈本3千冊 / 栃木県」『朝日新聞』2012.3.13.



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

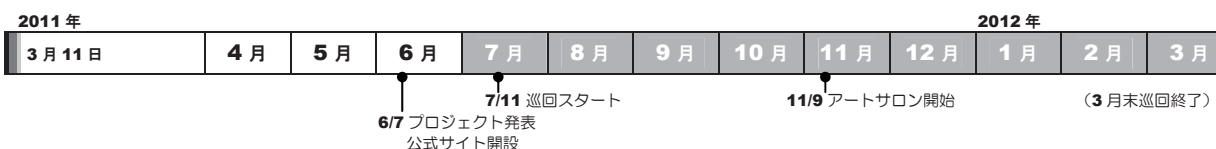
No. 28	三陸文化復興プロジェクト
活動概要	<p>岩手県遠野市の遠野文化研究センターによる、「文化による復興支援」を目指すプロジェクト。被災した県内公立図書館や学校図書館を支援する献本活動と、被災した県内博物館・図書館の資料救出やクリーニングを行う文化財レスキュー活動を2本の柱とする。同センターが6月のシンポジウムで発表し、全国に協力を呼びかけている。</p> <p>献本活動では「100万冊の書籍贈呈による文化復興」を目標に全国の個人・団体・出版社等から書籍及び支援金を募集、書籍は遠野文化研究センターで分類、整理した後、被災した図書館・学校図書館のニーズに応じて配本し、支援金は図書の購入のほか被災地図書館の本棚・備品の購入や読書環境整備に充てられる。2012年2月1日現在の応募状況は書籍約25万冊うち登録済約10万冊、支援金約600万円。9月中旬から配本を開始している。</p> <p>文化財レスキュー活動では、東京文書救援隊のシステムを導入し、陸前高田市、釜石市、大槌町を中心に被災した資料・図書のクリーニング作業を実施している。</p> <p>なお、同センターは、2011年4月1日に発足した、遠野の文化の調査・研究や文化を活かしたまちづくりへの協力・支援を行う組織。</p>
実施団体・機関	遠野市 [遠野文化研究センター]
受援施設・団体・機関	陸前高田古文書研究会、釜石市内小中学校（以上、寄贈書籍の配本） 大槌町立図書館、釜石市、陸前高田市立博物館（以上、津波被災文書・資料のクリーニング）
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・東京文書救援隊（文書復旧システムの提供） ・図書館流通センター（寄贈図書の分類・登録システムの提供） ・神奈川大学（KU“東北”ボランティア駅伝）、獨協大学、法政大学、遠野中学校、遠野まごころネット、東京海上日動笠井保険株式会社ほか（分類・登録作業ボランティア） ・武蔵野市、江戸川区立図書館、市川市中央図書館、筑摩書房ほか（図書の寄贈）
実施期間	2011年6月12日～（献本活動開始）
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> ・集まった書籍：約25万冊 ・支援金：約600万円（2012年2月1日時点）
出典及び関連情報	<p>遠野文化研究センター（岩手県遠野市） http://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/35,18008,162,html</p> <p>三陸文化復興プロジェクト～献本活動～（岩手県遠野市） http://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/35,18903,162,html</p> <p>[イベント]「文化による復興支援」シンポジウム（2011-6-12 あえりあ遠野交流ホール/2011-9-24 国立劇場小劇場）</p> <p>[展示] 震災からよみがえった東北の文化財展（2012.2.26～3.11 都立中央図書館）</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 29	「ブックワゴン」プロジェクト
活動概要	<p>トッパングループによる、被災地域を巡回する移動図書館事業。2台の車両に各2,500冊の図書を載せ、宮城県を中心とした仮設住宅地域を回り、移動図書館サービスの提供と、被災地域のニーズに合わせた各種イベントの開催を行う。</p> <p>印刷会社ならではの復興支援の取組として社内で企画が立ち上がり、トッパングループ全社で取り組む活動となった。</p> <p>購入及び寄贈（出版社やグループ社員から）で本を集めるとともに、図書館車のデザインと製作を行い、図書の整理とコーティングを経て、移動図書館車が完成した。公募された社員がスタッフとして同乗し、2011年7月から2012年3月末まで、被災地を巡回して本を届けている。</p> <p>現地NPO団体のアドバイスを受けながら活動に取り組むことで、より現地に根ざした長期的な活動を目指している。</p> <p>1週間を1サイクルとして定期的に巡回しており、周辺住民なら誰でも借りることができ、1度に5冊借りられる。社員スタッフによる特集コーナーも毎月企画されている。</p> <p>また、11月からは巡回地域で、「臨床美術」のワークショップ「アートサロン」も開催されている。</p>
実施団体・機関	トッパン（凸版印刷株式会社）グループ
受援施設・団体・機関	宮城県
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・[本の寄贈] <大震災>出版対策本部、株式会社フレーバル館 ・[図書館車のデザイン] 6D（ロクディ）、KARAPPO Inc. ・[図書整理、車両製作] 社会福祉法人 埼玉福祉会、株式会社 ヴィ・クルー ・[運営協力] NPOみやぎ・せんだい子どもの丘、株式会社デュナミス、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
実施期間	2011年7月～2012年3月末（巡回期間）
実績データ	車載冊数：約2,500冊×2台
出典及び関連情報	ブックワゴン http://bookwagon.jp/



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

		岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
No. 30	塙保己一翁夢プロジェクト							
活動概要	<p>岩手県・宮城県・福島県の各県の学校に図書を送るプロジェクト。2011年7月9日に、埼玉県本庄市の本庄総合公園体育館（シルクドーム）で開催された。</p> <p>「第59回関東地区大会 こだま大会」（主催：日本青年会議所関東地区協議会 主管：こだま青年会議所）のイベントとして行われたもので、被災地の子どもたちに図書を送りたいというこだま青年会議所（こだまJC）に、全国学校図書館協議会が賛同し、2団体の共催事業として行われた。</p> <p>出版社グループ等から寄贈された約4万冊の図書を、全国学校図書館協議会が被災地（岩手県、宮城県、福島県）で実施した調査で寄贈を希望すると回答した小学校・中学校・高等学校計132校に対し寄贈した。図書は学校図書館経験のあるボランティア等によって仕分けされ、学校の規模、被災状況、希望する種類等に応じて梱包され、翌日から各学校に配送された。また、寄せられた寄付金を用いて、追加の寄贈も行われる。</p>							
実施団体・機関	社団法人こだま青年会議所（こだまJC）、社団法人全国学校図書館協議会							
受援施設・団体・機関	岩手県、宮城県、福島県の学校図書館							
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・本の寄贈協力＝＜大震災＞出版対策本部（日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版クラブ）、角川グループホールディングス、セバ企画、読書感想文全国コンクール課題図書出版社一同、本庄国際奨学財団、矢野恒太記念会 ・後援：埼玉県、本庄市、上里町、美里町、神川町、埼玉県教育委員会、本庄市教育委員会、上里町教育委員会、美里町教育委員会、神川町教育委員会、児玉郡本庄市PTA連合会等 							
実施期間	2011年7月9日～							
実績データ	寄贈図書数：132校（小学校102校、中学校20校、小・中学校2校、高等学校8校） 約4万冊							
出典及び関連情報	<p>塙保己一翁・夢プロジェクトー被災地の学校図書館に本を送ります（全国学校図書館協議会）http://www.j-sla.or.jp/news/sn/yume-project110709.html</p> <p>塙保己一翁・夢プロジェクト 報告（全国学校図書館協議会）http://www.j-sla.or.jp/shinsai/post-89.html</p> <p>塙保己一翁夢プロジェクト「被災地の学校図書館を一杯にしよう!!」こだまJCブログ2011/8/3付けの記事）http://kdmstaff.exblog.jp/16367350/</p>							

2011年				2012年								
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				●								

7/9 実施、翌日から寄贈開始

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 31	「いわてを走る移動図書館」プロジェクト
活動概要	<p>シャンティ国際ボランティア会が岩手県遠野市に拠点をおき、岩手県の陸前高田市、大船渡市三陸町、大槌町、山田町で行っている移動図書館活動。2011年7月17日に開始された、「移動図書館」と「いわての置き本」の2つの取組がある。</p> <p>「移動図書館」は、本を積んで岩手県陸前高田市、大船渡市、大槌町、山田町の仮設住宅等を巡回する。本の貸出だけでなく、読書や交流のための机やいすも用意している。出版社等から寄贈を受けた約15,000冊の中から、絵本・コミック・小説・一般書を車に乗せて、仮設住宅を巡回する。希望する利用者に1人5冊まで貸し出し、次の巡回時に返却を受けるシステム。</p> <p>「いわての置き本」は、本棚と本を大槌町の仮設住宅（全25か所）の集会所・談話室に設置するもので、定期的に本の入れ替えも行われる。</p>
実施団体・機関	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）
受援施設・団体・機関	岩手県陸前高田市、大船渡市三陸町、大槌町、山田町
主な参画・協力団体・機関	<p>[協力] 3.11 絵本プロジェクトいわて</p> <p>[共催] 大槌町教育委員会</p> <p>[後援] 社団法人日本図書館協会、岩手県立図書館、陸前高田市教育委員会、大船渡市、大船渡市教育委員会、山田町教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉木工所、北上山地区家具製作協同組合、ピレリ社（「置き本」の本棚製作） ・メリルリンチ日本証券株式会社（移動図書館車の寄贈） ・ブックオフオンライン株式会社
実施期間	2011年7月中旬～
実績データ	所蔵冊数：約15,000冊
出典及び関連情報	<p>いわてを走る移動図書館プロジェクト http://iwate.sva.or.jp/ いわてを走る移動図書館プロジェクトニュースリリース（シャンティ国際ボランティア協会） http://sva.or.jp/eru/tohoku/iwate/ 岩手県における図書館事業計画書（シャンティ国際ボランティア協会） http://sva.or.jp/eru/tohoku/plan-iwate/ 大槌町ホームページ「いわての置き本」 http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2012021700041/ [新聞記事]「東日本大震災：笑顔も届ける移動図書館－岩手の被災地」『毎日新聞』2011.8.1.</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

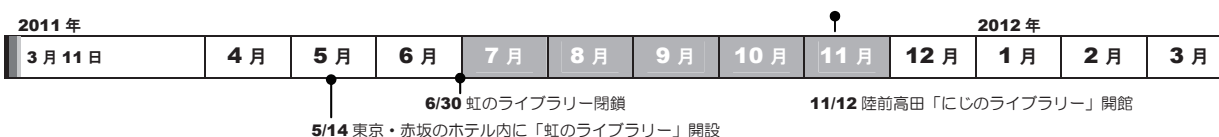
7/17 移動図書館巡回開始

10～11月「いわての置き本」開始

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 32	子ども図書館「にじのライブラリー」
活動概要	<p>地震と津波で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市に、子ども向けの図書館「にじのライブラリー」を開館するプロジェクト。</p> <p>日本書籍出版協会・日本雑誌協会・日本出版クラブによる「＜大震災＞出版対策本部」と日本国際児童図書評議会等による「子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト」が主体となり、避難所となっていた旧赤坂プリンスホテル内に日本出版クラブが開設していた図書室「虹のライブラリー」（6月30日閉鎖）の蔵書を移管し、三井物産が建物を提供した。</p> <p>2011年11月12日に、2,000冊を備えた木造の図書館として、同市内の今泉天満宮の敷地内で開館した。運営は、子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト、＜大震災＞出版対策本部、地元のボランティアが共同して行っている。</p>
実施団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・＜大震災＞出版対策本部（日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版クラブ） ・子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト（日本国際児童図書評議会、日本ペンクラブ子供の本委員会、日本出版クラブ、出版文化産業振興財団）
受援施設・団体・機関	岩手県陸前高田市
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・三井物産（建築物の寄贈） ・今泉天満宮（土地提供）
実施期間	2011年11月12日（開館）
実績データ	蔵書数：約2,000冊（開館時）
出典及び関連情報	<p>仮設図書館情報（陸前高田市） http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/kyouiku-sports/syougai-gakusyuu/kasetsu-tosyo/kasetsu-tosyo.html</p> <p>陸前高田市に三井物産の森の木材を使った仮設図書館がオープンしました(三井物産社会貢献ブログ 2011/11/18付けの記事) http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/blog/2011/11/post_49.html</p> <p>陸前高田の子ども図書館「にじのライブラリー」開館（子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト 2011/11/17付けの活動ニュース） http://www.jbby.org/ae/news/陸前高田の子ども図書館「にじのライブラリー」/</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

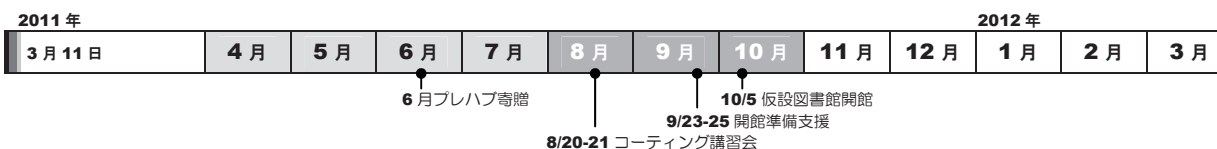
No. 33	「みやぎ復興支援図書センター」の設置運営
活動概要	<p>宮城県石巻市小船越に「みやぎ復興支援図書センター」を開所し、被災した図書施設の復興支援等を実施する事業。北海道のボランティア団体「北海道ブックシェアリング」が実施。</p> <p>同センターの活動内容は、被災によって読書環境整備が困難になった公共施設への図書提供、仮設住宅や近隣住民が気軽に本を借りることができるミニ図書館の運営、移動図書館や絵本プレゼント会等の図書イベントの実施、の3つ。</p> <p>道内企業等からの支援により2011年10月3日にセンターが開館した。開所に先立ち、道民に寄付を呼び掛けるなどして児童書を中心に7万冊を集め、うち2万冊がセンターに運ばれた。</p> <p>北海道ブックシェアリングは、不要になった図書を集め、クリーニング・整理したうえで、必要とする施設等に無償提供するという活動を行っている団体。</p>
実施団体・機関	北海道ブックシェアリング
受援施設・団体・機関	宮城県内の公共施設、仮設住宅等
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年10月3日（センター開館）～
実績データ	集まった図書数：児童書を中心に7万冊
出典及び関連情報	<p>北海道ブックシェアリング http://ameblo.jp/booksharing/ [新聞記事]「大震災被災児らの読書支援 図書センター、石巻に開所」『河北新報ニュース』2011.10.4. www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1062/20111004_03.htm</p>

2011年									2012年				
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
							●						
							10/3	センター開設					

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

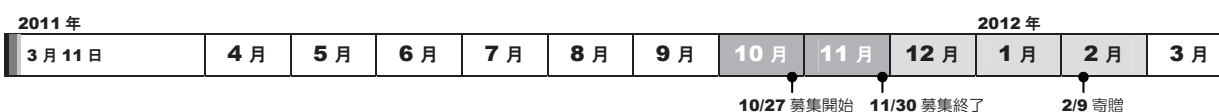
No. 34	南三陸町の仮設図書館開設支援
活動概要	<p>津波で図書館の建物が流失した宮城県南三陸町への支援活動。宮城県図書館の職員を中心として仮設図書館の開設の支援が行われた。</p> <p>仮設図書館は、南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」の敷地に開設されたもので、図書館振興財団からプレハブ（ユニットハウス）と移動図書館車、ライオンズクラブからトレーラーハウスの寄贈・貸与を受けた。図書は全国から寄贈された約3,000冊が揃えられた。</p> <p>開館準備として、2011年8月には南三陸町図書館員を対象に図書資料フィルムコーティング講習会が実施され、9月には、全国から集まった延べ92名の参加者によって、図書の整備、書架・閲覧室の装飾、システムへの登録等の作業が行われた。</p> <p>システムに関しては、Project Next-L が、オープンソース統合図書館システム Next-L Enju による導入支援、運用支援を行った。</p> <p>10月5日、保育所の約30名の子どもが招待され、再開館式が行われた。</p>
実施団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県図書館 ・<u>図書館振興財団</u>（ユニットハウス、移動図書館車の貸与） ・ライオンズクラブ（トレーラーハウスの貸与）
受援施設・団体・機関	宮城県南三陸町
主な参画・協力団体・機関	<p>[図書準備] <大震災>出版対策本部</p> <p>[システム支援] Project Next-L</p> <p>[開館準備作業] 宮城県内公立図書館等職員、大学図書館等職員、日本ブッカー株式会社、日本図書館協会関係者、saveMLAK有志、東北福祉大学星山ゼミ生</p>
実施期間	震災直後～2011年10月5日（開館）
実績データ	蔵書数：約3,000冊（開館時）
出典及び関連情報	<p>南三陸町図書館支援活動報告書（宮城県図書館） http://www.library.pref.miyagi.jp/minamisanrikushienhoukoku.pdf</p> <p>甦る図書館－南三陸町（仮設）図書館（Time with books 2011/10/1付けの記事） http://www.timewithbooks.com/monthly_special/06okamoto/vol42/p01/p01.html</p> <p>[雑誌記事] 及川庄弥「南三陸町図書館のこの一年」『図書館雑誌』2012.3, pp.150-151.</p> <p>南三陸町図書館再開のお知らせ（南三陸町 2011/9/26付けのお知らせ） http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/modules/gyousei/index.php?content_id=413</p> <p>南三陸町図書館（図書館振興財団 2011/10/3付けのブログ記事） http://d.hatena.ne.jp/toshokanshinko/20111003</p> <p>Project Next-L がオープンソース統合図書館システムで震災復興を支援（Project Next-L 2011/11/4付けのプレスリリース） http://www.next-l.jp/press_2011_11_04.pdf</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 35	「絵本を届けよう！」プロジェクト
活動概要	<p>東京都の立川市図書館による、宮城県石巻市図書館に絵本を届けるプロジェクト。石巻市図書館から日本図書館協会を通して新しい児童書の要望を受け、立川書籍商協同組合の協力のもとプロジェクトが立ち上げられ、市民等に対して協力が呼びかけられた。</p> <p>呼びかけへの賛同者は、60 タイトルが掲載された「基本図書リスト」の中の絵本を購入して立川市図書館へ届け、被災地に向けたメッセージとともに図書館に預けた。市内の協力書店で購入した場合は、書店が預かり書店経由で立川市図書館に届けることもできた。</p> <p>当初の目標の 1,200 冊を上回る合計 2,151 冊の絵本が集まり、520 枚のメッセージとともに、2012 年 2 月 9 日に石巻市図書館に届けられた。届けられた絵本は、仮設住宅を巡回する移動図書館車や小学校の図書室で利用される。</p>
実施団体・機関	東京都立川市図書館
受援施設・団体・機関	宮城県石巻市図書館
主な参画・協力団体・機関	[協力] 立川書籍商協同組合 [協賛] 立川幼稚園協会、立川地域文庫連絡会
実施期間	2011年10月27日～11月30日（募集期間）
実績データ	寄贈図書数：絵本合計2,151冊、メッセージカード 520枚
出典及び関連情報	<p>「絵本を届けよう！」プロジェクトへのご協力ありがとうございました！（立川市図書館 2012/2/27付けのお知らせ） http://www.city.tachikawa.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=7839 「絵本を届けよう！」プロジェクトのブログhttp://tachikawalibrary.blog.fc2.com/ 基本図書リスト（立川市図書館） http://www.city.tachikawa.lg.jp/cms-sypher/open_imgs/info/0000000184_0000024934.pdf</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 36	東松島市図書館による「小さな図書館」
活動概要	<p>宮城県の東松島市図書館による、全国から寄せられた寄贈図書を市内の仮設住宅等に「小さな図書館」として設置する取組。2011年11月下旬に、市内の仮設住宅集会所等8か所、市民センター2か所の合計10か所に開設された。</p> <p>書架、じゅうたん、児童用の椅子、仕切り板等は図書館振興財団からの支援を受けて設置された。</p> <p>図書の寄贈は、Amazonの「たすけあおう Nippon 東日本大震災プログラム」への賛同者、東京都書店商業組合、広島書店組合等から、合計1万1千冊が寄せられた。</p>
実施団体・機関	東松島市図書館
受援施設・団体・機関	
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>図書館振興財団</u> ・ Amazon社 ・ 東京都書店商業組合 ・ 広島書店組合 ・ オンライン書店boox（ブックス） ・ 「こどもとあゆむネットワーク」 ・ クレヨンハウス ほか
実施期間	2011年11月下旬～
実績データ	寄贈図書数：11,000冊（各館600～1,500冊）
出典及び関連情報	<p>東松山市立図書館 http://www.lib-city-hm.jp/lib/013.small%20library/library.html [新聞記事] 被災者も読書楽しもう—東松島市「小さな図書館」開設（三陸河北新報 2011/11/24） http://www.sanriku-kahoku.com/news/2011_11/i/111124i-dokusyo.html</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

11月下旬開設

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 37	学校図書館げんきプロジェクト
活動概要	<p>活字文化推進会議、全国学校図書館協議会、文字・活字文化推進機構による、岩手県・宮城県・福島県の学校図書館の復興を支援するプロジェクト。2011年12月から2014年3月までの期間での実施。</p> <p>被害を受けた学校に図書を寄贈する活動を中心に、学校図書館の復興をソフト・ハード両面から支援し、教育による被災地域の復興・再生を目指すことがプロジェクトの設立趣旨となっている。</p> <p>主な活動として、学校図書館の復興支援のための寄付金を募り、被災地の学校への希望調査に基づき、新しい図書を購入して寄贈する。寄贈は学校の地元の書店を通じて行う。また、学校図書館の活用に関する研修会や読書に関するイベントの現地開催等を通じて、教育現場への支援も行う。</p>
実施団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>活字文化推進会議</u> ・ <u>社団法人全国学校図書館協議会</u> ・ <u>公益財団法人文字・活字文化推進機構</u>
受援施設・団体・機関	・ 岩手県、宮城県、福島県の学校図書館
主な参画・協力団体・機関	・ 読売新聞社
実施期間	2011年12月～2014年3月
実績データ	寄付金総額：14,959,661円（2012年2月29日現在）
出典及び関連情報	<p>全国学校図書館協議会・学校図書館げんきプロジェクト</p> <p>http://www.j-sla.or.jp/shinsai/genki-project.html</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

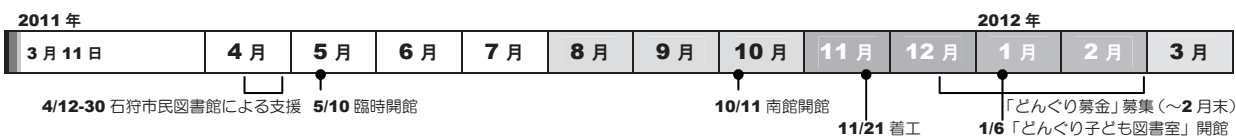
12/1 開始

(～2014年3月終了予定)

5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 38	名取市図書館「どんぐり子ども図書室」
活動概要	<p>地震による損壊で本館が使用できない名取市図書館に、移動図書館用バスに替わる木造仮設の子ども用図書室を建設するプロジェクト。saveMLAKのコーディネートにより、日本ユニセフ協会が建設資金を提供、東海大学の震災復興応急住宅モデル「どんぐりハウス」のシステムを導入して2011年11月下旬に着工。12月末に竣工し、本館の蔵書15万冊のうち児童書等2万冊を移して2012年1月6日に開館した。</p> <p>saveMLAKはプロジェクトのコーディネートのほか、開館準備のためのボランティアの派遣仲介や、東海大学チャレンジセンター「3・11生活復興支援プロジェクト」の「どんぐり募金」による本棚購入費の調達等も行った。</p> <p>なお、名取市図書館は北海道石狩市等の復旧支援を受け、5月に書庫と移動図書館を使って臨時開館、10月には図書館振興財団の支援によってプレハブの南館を開館している。</p>
実施団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・東海大学 ・公益財団法人日本ユニセフ協会
受援施設・団体・機関	名取市図書館
主な参画・協力団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・saveMLAKプロジェクト（コーディネート、募金） ・かながわ東日本大震災ボランティアステーション [構成団体：神奈川県、神奈川県社会福祉協議会、神奈川災害ボランティアネットワーク]（開館準備、備品の寄贈） ・宮城県図書館、宮城大学（開館準備） ・スギヤマ株式会社（建築施工）・登米町森林組合（本棚制作） ・子育て支援サイト「ミーテ」（図書の寄贈）ほか
実施期間	2011年11月着工～2012年1月開館
実績データ	蔵書数：約2万冊（開館時）
出典及び関連情報	<p>名取市 図書館・自動車図書館「なかよし号」のお知らせ http://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/kyouiku/shougai/tosyokan/node_4352 東海大学チャレンジセンター「3.11生活復興支援プロジェクト」 http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/3.11lcp/ 日本ユニセフ 東日本大震災緊急募金第138報 被災地に、子どもたちの図書館が戻ってきました「名取市図書館どんぐり子ども図書室」完成http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2012_0110.htm 「東日本大震災 被災地支援活動（宮城県名取市）」（石狩市民図書館） http://www.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp/tosho/news.html#被災地支援</p>



5.2.被災地における図書館・読書環境の整備支援(No.13～39)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 39	大槌町の「かねざわ図書室」開設
活動概要	<p>岩手県大槌町の旧金沢小学区内に、常設の「かねざわ図書室」をオープンするプロジェクト。「いわてを走る移動図書館プロジェクト」を実施しているシャンティ国際ボランティア会が支援した。</p> <p>図書室は、小説、実用書（ビジネス、料理や手芸、日曜大工）、詩集、子ども向けの本等 5,000 冊以上を備えており、今後、リクエストに応じて増やす予定。1 人 2 週間 5 冊まで貸出が可能。館内には雑誌やマンガを置いたカフェスペースも設置している。開館日は毎週月曜と木曜、第 1 と第 3 日曜の 11～16 時。2012 年 2 月 5 日の開館日には、開館を記念してオープニングイベント「新春初笑なごみ寄席講演と吉里吉里元気プロジェクトコンサート」を開催した。</p>
実施団体・機関	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）
受援施設・団体・機関	岩手県大槌町
主な参画・協力団体・機関	大槌町教育委員会
実施期間	2012年2月5日（開館）～
実績データ	蔵書数：5,000冊以上（開館時）
出典及び関連情報	<p>2月5日、岩手県大槌町に「かねざわ図書室」がオープンします（シャンティ国際ボランティア会 2011/1/31付けプレスリリース http://sva.or.jp/press-release/press-release201201311586.html まちのお知らせ（広報おおつち 2012年1月号） http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2012022000096/files/kouhou527_4.pdf</p>

2011年

2012年

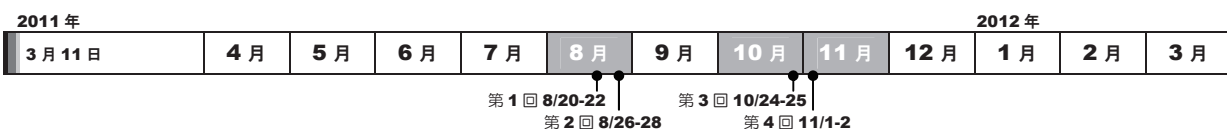
3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

2/5 開館

5.3 図書館サービスを通じた被災地支援(No.40～44)

岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
----	----	----	----	----	----	-----

No. 40	寄贈本整理のためのボランティア派遣
活動概要	<p>全国学校図書館協議会による、被災地での寄贈本の整理のためのボランティアを派遣する事業。図書館実務・図書整理の経験を持つボランティアを募集し、同協議会等が図書を寄贈した学校のうち、図書の整理を希望した学校を訪問して図書の分類、ラベル作成・貼付、データの入力作業等を支援した。</p> <p>被災地で寄贈本の整理に苦慮しているとの声を受けて、同協議会震災対応委員会等で2011年7月9日に実施した「塙保己一翁・夢プロジェクト」での図書の寄贈先である岩手県・宮城県・福島県の計132校に、整理ボランティア派遣の希望の有無を尋ねた。</p> <p>ホームページでボランティアを募集し、第1回(8月20日～22日)と第2回(8月26日～28日)で福島県と宮城県の4校を訪問して7校分を整理し、第3回(10月24日～25日)と第4回(11月1日～2日)で岩手県の3校分を整理した。</p>
実施団体・機関	社団法人全国学校図書館協議会
受援施設・団体・機関	岩手県、宮城県、福島県の学校図書館
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年8月～11月 (第1回2011年8月20日～22日、第2回2011年8月26日～28日、第3回2011年10月24日～25日、第4回2011年11月1～2日)
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> ・整理した図書：(第1・2回) 宮城県・福島県7校分、(第3・4回) 岩手県3校分 ・参加ボランティア数：(第1回) 7名+スタッフ2名 (第2回) 11名+スタッフ2名
出典及び関連情報	<p>図書整理ボランティア(第1回・第2回)報告(全国学校図書館協議会) http://www.j-sla.or.jp/shinsai/tosyoseiri-volunteer1-2.html 全国SLAの「東日本大震災」に対する対応(全国学校図書館協議会) http://www.j-sla.or.jp/news/sn/post-24.html</p>



5.3 図書館サービスを通じた被災地支援(No.40～44)

岩手	宮城	福島	茨城	栃木	千葉	その他
----	----	----	----	----	----	-----

No. 41	国立国会図書館に対する遠隔複写サービス支援
活動概要	<p>震災で国立国会図書館東京本館の本館書庫高層部の資料約 180 万冊が書架から落下し、昭和 63 年以降受け入れた和図書及び昭和 43 年以降受け入れた洋図書等が利用停止となった。</p> <p>資料の復旧作業期間中、国立国会図書館では上記資料の遠隔複写申込を受けられなくなった。そのため、国立国会図書館の遠隔複写サービスが回復するまでの約 1 カ月間、関西地域以西の府県立図書館 12 館が全国からの遠隔複写申込みを受付けることを了承し、国立国会図書館を支援した。</p>
実施団体・機関	
受援施設・団体・機関	国立国会図書館
主な参画・協力団体・機関	福井県立図書館、滋賀県立図書館、京都府立図書館、大阪府立図書館、兵庫県立図書館、奈良県立図書館情報館、和歌山県立図書館、鳥取県立図書館、島根県立図書館、岡山県立図書館、広島県立図書館、山口県立山口図書館
実施期間	2011年3月11日～4月11日
実績データ	
出典及び関連情報	国立国会図書館年報（平成 22 年度）（国立国会図書館 2011 年 8 月 30 日付け） http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/h22/nen22.pdf

2011 年

2012 年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

4/11 遠隔複写サービス復旧

3/11 府県立図書館に依頼

5.3 図書館サービスを通じた被災地支援(No.40~44)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 42	被災地域への公衆送信権の時限的制限の依頼
活動概要	<p>震災のため資料・情報の入手が困難な期間及び地域に限定して、電子ネットワークや機器を利用した図書や文献等の利用を可能とするために、日本図書館協会が著作権権利者団体に対して行った協力依頼。</p> <p>2011年3月24日に開催された「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」での議論を踏まえ、日本図書館協会は、3月25日付けで発表した「被災者を支援する図書館活動についての協力依頼―被災地域への公衆送信権の時限的制限について―」において、著作権権利者団体に対して、次の2つの行為についての許諾を求めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の文献複写サービスによる複写物を、メールやFAX等で被災者や被災地の図書館や病院等の公共施設や救援活動を行っている団体・個人等に送信すること。 ・ 被災地の乳幼児への絵本の読み聞かせや高齢者向けのお話し会の実施のために必要となる資料の複製や、各図書館での読み聞かせ等の中継や録音録画したものの配信、絵本の版面の公衆送信等。 <p>これらの許諾の期間や地域の範囲については、被災のため資料や情報の入手の困難な期間及び地域に限定するものとされた。</p> <p>これを受け、日本書籍出版協会は、会員各社に対し協力を求める文書を発表した。</p>
実施団体・機関	社団法人日本図書館協会
受援施設・団体・機関	被災地域、被災地域での救援活動実施者
主な参画・協力団体・機関	・ 著作権権利者団体
実施期間	2011年3月25日
実績データ	
出典及び関連情報	<p>被災者を支援する図書館活動についての協力依頼 ―被災地域への公衆送信権の時限的制限について― (日本図書館協会 2011/3/25付け) http://www.jla.or.jp/portals/0/html/earthquake/20110325.html</p> <p>大震災被災者支援活動に関する情報提供に関するお願いと日本図書館協会からの要請等について (日本書籍出版協会 2011/4/5付け) http://www.jbpa.or.jp/pdf/documents/saigai-support-info.pdf</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

- 4/5 日本出版協会「大震災被災者支援活動に関する情報提供に関するお願い」発表
- 3/25 日本図書館協会依頼文発表
- 3/24 「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」開催

5.3 図書館サービスを通じた被災地支援(No.40～44)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 43	被災者への電子書籍・電子ジャーナル等の提供
活動概要	<p>被災地で情報を必要とする人のための、出版社や各種団体等による、電子書籍や電子ジャーナルの無償提供。多くは期間限定で実施された。</p> <p>医療機関向けの診療ガイドや家庭向けの医学本、法律実務ガイド等の実用本に加え、放射線に関する本や、災害関連の過去の記事等の無償公開も行われた。</p> <p>また、震災で印刷・配送等に影響が発生していることから、週刊誌やマンガ雑誌のインターネットでの公開が実施された。</p> <p>日本図書館協会は、2011年5月に、日本ユニシス株式会社の協力を得て、震災や復旧・復興に関する電子書籍等を公開する「東日本大震災復興支援サイト」を立ち上げた。</p> <p>被災地の研究者向けには、エメラルド社、シュプリンガー社、エルゼビア社等の出版社の電子ジャーナルや、科学技術振興機構（JST）やトムソン・ロイター社、Gale社等のデータベースの無償公開等が行われた。</p>
実施団体・機関	電子書籍出版各社、社団法人日本図書館協会 等
受援施設・団体・機関	被災地の住民、支援活動実施者等
主な参画・協力団体・機関	
実施期間	2011年3月～
実績データ	
出典及び関連情報	<p>日本図書館協会 東日本大震災復興支援サイト https://www.libeaid.jp/jla/ [新聞記事]「無償電子書籍で被災地支援 医療・法律・建築・震災体験、漫画も」『MSN産経ニュース』 2011.5.4. http://sankei.jp.msn.com/life/news/110504/bks11050407370001-n1.htm</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

3/23 少年ジャンプ無料配信 5/23 「東日本大震災復興支援サイト」サイト開設
 (3-5月末 出版各社が期間限定無料配信サービス実施)

5.3 図書館サービスを通じた被災地支援(No.40～44)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 44	「だれでも・どこでもQ&A図書館」
活動概要	<p>被災地域の図書館に代わり、全国各地の図書館員がボランティアでレファレンスサービスを代行するプロジェクト。略称「だれどこ」。</p> <p>利用方法は、ウェブサイトのフォームから質問を受け付け、回答者として登録したメンバー（「回答団」）が調査し、メールで回答を行う。当初は被災地の図書館からのみ受け付けていたが、6月15日から法人、公共機関、個人にも拡大した。2012年12月31日まで質問を受け付ける予定。質問の受付・対応には、OCLCと株式会社紀伊國屋書店の支援で、農林水産研究情報総合センターに導入されているOCLCのオンラインレファレンスシステム QuestionPoint を日本語化して活用している。</p> <p>被災者の生活上の疑問や復旧のために必要な情報等について回答する。「避難所にいる子どもたちやお年よりもみんなで、室内で遊べるゲームが知りたい」「みんなで昔学校で習った歌を歌いたいから、歌詞を教えて」等の質問が例示されている。</p>
実施団体・機関	発起人：国立国会図書館レファレンス協同データベースサポーター有志
受援施設・団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の図書館 被災地の住民 被災地でのボランティア活動従事者 被災地からの避難者
主な参画・協力団体・機関	<p>(協力者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林水産研究情報総合センター OCLC 株式会社紀伊國屋書店 社団法人日本図書館協会 東京学芸大学 学校図書館運営専門委員会司書部会
実施期間	2011年4月～2012年12月31日（予定）
実績データ	<ul style="list-style-type: none"> 「回答団」登録者数：個人60名（事務局との重複含む）、4機関（大阪産業労働資料館「エル・ライブラリー」、慶應義塾大学理工学メディアセンター、国立教育政策研究所教育図書館、成田市立図書館）（2012年2月1日現在）
出典及び関連情報	<p>だれでも・どこでも Q&A図書館 http://savemlak.jp/wiki/daredoko [新聞記事] 「被災者の問い合わせに答えます 有志が「だれでも・どこでもQ&A図書館」『MSN産経ニュース』2011.7.12. http://sankei.jp.msn.com/life/news/110712/trd11071207340002-n1.htm</p>

2011年

2012年

3月11日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
-------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

4月立ち上げ

(2012/12/31 終了予定)

5.4 被災図書館支援ポータルサイト(No.45)

岩手 宮城 福島 茨城 栃木 千葉 その他

No. 45	博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報の統一サイト「saveMLAK」
活動概要	<p>博物館・美術館（Museum）、図書館（Library）、文書館（Archives）、公民館（Kominkan）関係者・支援者等の有志による、これらの施設の被災情報や復旧・支援情報等をまとめたウィキサイト。震災発生後に開始された“savelibrary”、“savemuseum”“savearchives”“savekominkan”の活動が統合され、2011年4月から「saveMLAK」という名称となった。</p> <p>被害の状況についての情報と、必要とされる支援についての情報を集約していくとともに、被災した施設や人々に対して、博物館・美術館、図書館、文書館、公民館等の施設やその関係者ができること、必要と思われる情報を提供することを目的としている。</p> <p>サイトでは、施設に関する情報に加えて、対象者別の情報として、「被災者、避難・疎開をしている方へ」「被災地で復旧活動をしている方へ」「これからボランティア・支援活動をしたい方へ」「全国の施設関係者の方へ」の情報が掲載されている。また、被災地等の写真を共有するサイトも開設されている。</p> <p>2012年1月17日には、saveMLAKの有志による、被災地の事情を考慮し本の寄贈は行わないとする「本を送りません宣言」がサイトに掲載された。</p>
実施団体・機関	saveMLAKプロジェクト（プロジェクトリーダー：岡本真氏）
受援施設・団体・機関	
主な参画・協力団体・機関	（プロジェクト構成員） 博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の関係者や支援者等の有志
実施期間	2011年4月11日～
実績データ	掲載施設情報： 21,912件（2012年3月13日現在）
出典及び関連情報	<p>saveMLAK http://savemlak.jp/ 博物館・美術館、図書館、文書館、公民館（MLAK）の被災・救援情報サイト、始動（2011/4/11付けプレスリリース） http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20110411 Photo archives（写真） http://savemlak.jp/wiki/Photo_archives 本を送りません宣言（第一版公開：2012年1月17日）http://savemlak.jp/wiki/本を送りません宣言</p>



